

新潟でスマートウエルネスシティ健康サミット

日常的に歩くことで生涯にわたって健康に暮らせる「健康な街、スマートウエルネスシティ(SWC)」。その実現を目指すSWC総合特区の自治体首長らが、まちづくりに関して話し合う「スマートウエルネスシティ健康サミット」が、2月24日(日)、新潟市のりゅうとびあで開かれた。学術的な面からこの取り組みを支える筑波大学大学院人間総合科学研究科の久野謙也教授をコーディネーターに、待ったなしの高齢化社会に向けたまちづくりに関して意見交換した。(本文敬称略)

「歩く街」どう実現



スマートウエルネスシティ総合特区の首長らが「健康」なまちづくりへの取り組みを話し合った。1月30日、りゅうとびあ

久野 謙也 筑波大学大学院教授
久住 時男 見附市長
国定 勇人 三条市長
仁志田 昇司 福島県伊達市長
篠田 昭 新潟市長
コーディネーター

先進地体験し理解促進 公共交通に公費投入を

久野 謙也 筑波大学大学院教授
久住 時男 見附市長
国定 勇人 三条市長
仁志田 昇司 福島県伊達市長
篠田 昭 新潟市長
コーディネーター

市街へのアクセス大切 市 仁志田市長
イベント増やし日常化 市 国定市長

見附市 三条市 各市の取り組み報告
福島県伊達市 新潟市

見附市 三条市 各市の取り組み報告
福島県伊達市 新潟市

見附市 三条市 各市の取り組み報告
福島県伊達市 新潟市

見附市 三条市 各市の取り組み報告
福島県伊達市 新潟市

「健康」に暮らすために



東京では通勤に自家用車を使う人が35%、愛知県は75%、両都府県の糖尿病は足し算、細切れでも患者数は圧倒的に愛知が多い。新潟は愛知県と科学的に証明されて型、つまり糖尿病になりやすい街だと言える。以前は20分以上歩いて歩かないと、歩行の運動

「健康」に暮らすために。日常の移動が運動になる。これは、歩くことが、公共交通を使うとほぼ同じ。歩くことが、地方都市圏、域活動活性化し、外出、二酸化炭素の排出量も減る。000歩を健康と見なす。000歩を健康と見なす。000歩。新潟もこのタイプがある。定年後、地域ごと

市街へのアクセス大切 市 仁志田市長
イベント増やし日常化 市 国定市長

見附市 三条市 各市の取り組み報告
福島県伊達市 新潟市

見附市 三条市 各市の取り組み報告
福島県伊達市 新潟市

見附市 三条市 各市の取り組み報告
福島県伊達市 新潟市

私たちはスマートウエルネスシティを推進しています

街の未来をともに描く。地球を、より賢く、よりスマートに。スマートな街づくり

NTT東日本は「スマートウエルネスシティ」構想に賛同し、「自治体共用型健康クラウド」の整備に向けて取り組んでいます。smart wellness city

お役に立っていますか。暮らしに届く確かな広告。全広連 新潟広告協会